

議事録

会議名	令和４年度（２０２２年度）交付分 第一回市民企画事業補助金申請事業評価会議
日時	令和３年（２０２１）１２月１１日（土） 午後２時 ～ ４時
実施方法	Teams によるオンライン会議
参加者	新田目夏実、岡本彰子、海老澤孝一、土屋和子、中島多栄子（敬称略）
欠席者	小室崇司（敬称略）
事務局	青柳協働推進課長、長尾千恵主査、馬場奈那子主任
議題	１ 委員の自己紹介 ２ 事務局の紹介 ３ 市民企画事業補助金申請事業評価会議について ４ 座長・副座長の選出 ５ 令和４年度（２０２２年度）補助対象事業の募集及び評価のスケジュール等について ６ その他
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	なし
配付資料	資料１-１ 市民企画事業補助金申請事業評価会議 参加者名簿 資料１-２ 市民企画事業補助金申請事業評価会議開催要綱 資料２ 令和４年度（２０２２年度）市民企画事業補助金補助対象事業 募集要項（案） 資料３ 令和４年度（２０２２年度）市民企画事業補助金申請事業 評価の流れ 資料４ 令和４年度（２０２２年度）市民企画事業補助金補助対象事業の審査に関する取扱要領 資料５ 令和４年度（２０２２年度）市民企画事業補助金 補助対象事業の採択基準（案） 資料６ 令和４年度（２０２２年度）市民企画事業補助金 事務日程表（案） 参 考 ①審査体制・方法・評価項目等一覧 ②これまでの応募・採択件数および交付金額の推移 ③令和３年度（２０２１年度）市民企画事業補助金交付事業の進捗状況 応募書類 様式１ 市民企画事業補助金申込書 様式２ 市民企画事業実施計画書 様式３ 市民企画事業収支計算書 確認書 公開プレゼンテーション確認書・新型コロナウイルス感染症確認事項
会議の内容	① 青柳協働推進課長 挨拶 ② 各参加者の自己紹介 ③ 事務局職員の紹介 ④ 市民企画事業補助金申請事業評価会議について

	⑤ 座長副座長の選出 要綱第4条に基づき、互選により選任することになっているが、事務局からの提案により、以下のとおり決定した。 座 長：新田目委員 副座長：小室委員 <以降、新田目座長が進行>
会議の内容	⑥ 資料2を基に制度の概要と補助対象事業の募集について事務局から説明。 <質疑応答> 座 長 資料2の「3.応募対象事業の種類」の「内容」について、事務局から文章を修正したいとの話あった。 【A部門】 「自らの活動を広く紹介する事業に要する経費」を削除する。 座 長 「広く紹介する事業」という表現に違和感があった。 委 員 「広く紹介する」というのは、PR・宣伝広告という意味ではないのか。 座 長 今までも、PR費は経費として認められていたし、今後も同様。ただ、広く周知することだけでなく、事業そのものを支援しているものであるから、あえてこの表現を記載しておく必要は無い。 他に意見がなければ、「自らの活動を広く紹介する事業に要する経費」は削除する。 【B部門】 「将来市と協働で実施する事業として企画提案するために試行する事業」を削除する。 座 長 今まで特に違和感なくこの文章にしていた。主旨としては間違いはないが、「市と協働する」ことを前提としているわけではない。

委 員

市民団体が市と協働したいと思っても、簡単にはできない。それを前提としているのは少し違和感がある。

委 員

実際に市と協働となると、縛りがあり、団体側の事業計画を変更する必要も出てくる可能性がある。市と協働することを前提とする必要は無い。

座 長

では、「市と協働して実施する～」の部分は削除する。

【C部門】

異なる分野での団体同士の連携を求めるため、協力連携する他の団体は、「主となる団体と違う分野の団体」など条件をつけて募集する。

座 長

事務局としてはどのような文章に変更を予定しているのか。

事務局

違う分野の団体との連携が望ましいため、「分野の違う団体同士」など、こちらの意図するところをもう少し条件として付け加えたいと考えている。

座 長

「違う分野」とは？子どもと高齢者の支援は別分野になるのか。

委 員

異業種との連携ということか。異業種連携は市民側としてもとても大事なもの。より視野を広げた活動を行うことができる。

事務局

異業種間の交流を持ってほしいという働きかけにもなると考える。

委 員

市民活動団体側からすれば、「異業種」という表現がどうとられるか心配。「他団体」という表現も同様。どんな言葉を選ぶかも重要。

座 長

複数団体との連携を促すことがC部門の主旨。2～3年くらい前に市からの提案で出てきた部門だが、実際に運用してみると思ったとおりの申込みがない。

委 員

違う団体と連携・協力して実施するということは、予算規模を大きくする必要は無いのか。「もう少し補助が出れば頑張るのに」という気持ちが団体にはあるのでは。

座 長

今後も継続してC部門を実施するのであれば、もう少しインセンティブをつけないと難しいかもしれない。

委 員

確かにもう少し予算が多ければという思いはある。50万円というのはぎりぎりの金額ではあると思う。せめて80～100万円はないと厳しい。とはいえC部門は魅力的。自分たちだけではできることも限られているが、連携できれば実施できることもある。

委 員

C部門の採択する数を1つとするのはどうか。または条件をつけるのは。

事務局

採択数を1とすることを公表するのか。それとも内々の取り決めとするのか。

委 員

公募の段階で採択数を公表しておく。団体も申込む段階で分かっていたほうがいい。

事務局

採択団体数を公表するのであれば、C部門だけでなく、A、B部門でも何団体採択するのか公表しないといけない。また、最近の団体は上限額いっぱい要求してくるのでなく、必要な金額で申請してくる団体もあり、採択団体数を決めてしまうとかえって不用額を生んでしまう可能性もある。そのため、採択団体を公表する必要は無いのではないかと事務局では考える。

委 員

異業種の話に戻るが、団体にイメージさせるため、具体例を例示してもいいかもしれない。

委 員

C部門の採択団体を1つに限るとすると、採択基準を満たしている団体が複数あった時はどうするのか。予算を超えてしまった場合はどうするか等の課題も出てくると思う。

事務局

募集要項に、あくまでも予算の範囲内での事業であるという旨の文章を記載する。

委 員

C部門の審査を厳しくするのはどうか。上限金額を引き上げるのであれば、その分審査も厳しくする必要がある。

事務局

上限金額を引き上げ、その分審査を厳しくする。また、募集要項の記載内容については事務局で再度検討する。

座 長

資料2の「3.応募対象事業の種類」の「内容」については、事務局のほうで今出た意見を整理してほしい。

続いて、「3.応募対象事業の種類」の「補助金額」について、事務局からB部門、C部門のそれぞれ②の部分削除するという案が出ているがこちらはいかがが。

委 員

事務局案のとおりで問題ない考える。

⑦ 令和4年度（2022年度）補助対象事業の評価方法について

事務局

資料3、4、5、6により、評価の方法及び日程等について説明。

<質疑応答>

座 長

資料4の2-（2）①アの文章について、この表現は適切か。収支計画に記載すれば問題ないのではないか。

事務局

例年この表現で掲載しており、市としても他の財政的支援を受けている中で市民企画事業補助金を交付することはできないと考えている。

委 員

B部門の予備評価項目のうち、「八王子らしさ」という表現に違和感あり。「八王子に対する貢献度」でもいいのでは。

事務局

ここでの「八王子らしさ」という言葉は、八王子のまちづくりに寄与しているかという内容で使用している。「八王子に対する貢献度」という表現でも問題はない。

座 長

評価項目の「政策合致性」の中に「八王子らしさ」は含まれていると考える。

また、同じくB部門の予備評価項目のうち、「協働事業化の可能性」について、評価項目は「事業化への可能性」や「事業化への自立性」等が適当ではないか。着眼点についても、将来市との協働事業として実施可能かではなく、「将来自立運営が可能か」という視点のほうが適切ではないか。

委 員

「協働事業化の可能性」ではなく、「協働事業化の将来性」でもいいのでは。

座 長

C部門の予備評価項目はどうか。

委 員

アイディア性は当然にないと困るもの。着眼点の文章はこれで問題ないかと思うが、評価項目を「アイディア性」ではなく、別のものに変更したほうがいいのか。また、計画性も同様。計画性よりも事業の「継続性」に着目したほうがいいのかも。かもしれない。

委 員

「相乗効果」という表現も少し気になる。連携による自立・発展が見込めるかということに着眼点とし、評価項目は、例えば「発展性」、「自立性」、「効果性」等でもいいかもしれない。

委 員

C部門にも「八王子に対する貢献度」という項目を設けてもいいのでは。

事務局

今出た意見を事務局で整理し、まとめたものを委員にお示しする。

座 長

評価会議による評価項目についてはどうか。

委 員

B部門の評価項目のうち、「ニーズの高さ」というのが、毎回何を物差しにすればいいのかわからない。感覚的なものになっている。

座 長

我々評価委員は、市内企業や学生、地域活動関係者等の分野の代表としてこの会議に参加している。自分たちの経験から判断することで問題はないと考える。

委 員

C部門の評価項目について、「補完性」「発展性」という表現が気になる。他団体と連携して実施するのは足りないところを補いあうだけではないのではないか。言い換えの表現として「連携性」や「相乗効果性」、「自立性」「継続性」を検討してはどうか。

委 員

採択基準について、C部門の上限金額を上げるのであれば、採択基準も厳しくする必要がある。補助金の必要性「有」の委員数を5名から6名に変更してもいいのでは。

座 長

この議論の中で様々な意見が出たが、事務局で整理し取りまとめてほしい。他に意見がある場合は直接事務局へ。

⑧ 今後の評価会議日程について

事務局

今後のスケジュールについて、資料6「事務日程」で説明。

- ・ 第一回評価会議（本日の会議となる）
- ・ 第二回評価会議（公開プレゼンテーション）

令和4年（2022年）4月9日（土）クリエイトホール 視聴覚室

※委員はTeamsによるオンライン参加を予定

- ・ 第三回評価会議

令和4年（2022年）4月16日（土）Teamsによるオンライン会議

- ・ 第二回、第三回の時間については決定次第連絡する。